

令和８年度第１回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会

日 時 令和８年７月１７日（金）

午後２時００分～午後３時３０分

会 場 一関市役所３階 特別会議室

次 第

１ 開 会

２ 挨 拶

３ 議 題

- (１) 第３次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの改定について（報告）
- (２) 第４次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定について
- (３) 令和８年度一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催スケジュールについて

４ その他

５ 閉 会

一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿
(任期:令和7年6月18日～令和9年6月17日)

No.	氏名	ふりがな	所属団体等	職名	備考
1	伊 藤 拓 也	いとう たくや			
2	大 浪 友 子	おおなみ ともち			
3	小野寺 文 朗	おのでら ふみお			
4	金 澤 英 治	かなざわ えいじ			
5	栗生澤 奈生子	くりうざわ なおこ			
6	金 野 真由美	こんの まゆみ			
7	佐々木 勝 義	ささき かつよし			
8	佐々木 牧 恵	ささき まきえ			
9	佐々木 利 恵	ささき りえ			
10	齋 藤 清 壽	さいとう せいじゅ			
11	佐 藤 一 則	さとう かずのり			
12	菅 原 清 忠	すがわら きよただ			
13	須 田 志 優	すだ しゅう			
14	千 葉 国 彦	ちば くにひこ			
15	千 葉 つえ子	ちば つえこ			
16	千 葉 直 樹	ちば なおき			
17	南 洞 法 玲	なんとう ほうれい			
18	畠 中 良 之	はたなか よしゆき			
19	古 川 泰 也	ふるかわ しんや			
20	山 平 功 二	やまだいら こうじ			

オブザーバー

松 本 英 雄	まつもと ひでお	平泉町まちづくり推進課	課長	
鈴 木 麻友子	すずき まゆこ	平泉町まちづくり推進課	課長補佐	

令和8年度第1回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会 市出席者名簿

令和8年7月17日(金)開催

No.	役 職	氏 名	備 考
1	市長公室長	飯村 昌弘	
2	市長公室次長 兼 政策企画課長	菊川 秀樹	
3	市長公室 政策企画課 政策推進係長	菊地 絵理子	
4	市長公室 政策企画課 主任主事	渡辺 苑子	
5	市長公室 政策企画課 主任主事	谷藤 義拓	

第 3 次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 主な改定内容（2026（R8）年 3 月改定）

『第 3 次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン（令和 7 年 3 月改定）』から改定した箇所は以下のとおり（事業費の見直しについては省略）

ページ	政策分野	具体的な取組	改定の内容	備考
1			計画期間の終期を『2028 年度（令和 10 年度）』から『2026 年度（令和 8 年度）』に変更	・令和 7 年 12 月 17 日ビジョン懇談会で計画期間の変更を説明
13	産業振興	インバウンド推進事業	事業名称に以下の事業を追加 ○みちのく G O L D 浪漫推進事業費 ○いわて平泉歴史文化観光地域計画推進事業費	・単年度事業
18	産業振興	地産外商促進事業	事業名称に以下の事業を追加 ○地場特産品海外展開等推進事業費	
21	産業振興	起業・創業支援事業	事業名称に以下の事業を追加 ○課題解決型支援事業（しごとづくり支援金）	
27	教育及び文化	世界遺産価値向上推進事業	事業名称に以下の事業を追加 ○骨寺村荘園 900 年記念事業費	・単年度事業

【参考】事業の内容

事業名称	事業費（R8）	事業の概要
みちのく G O L D 浪漫推進事業費	10,450 千円	文化財を活用した地域活性化・観光振興を図るため、日本遺産「みちのく G O L D 浪漫」推進協議会へ加入し、市内の産金文化を紹介するための環境を整備する。
いわて平泉歴史文化観光地域計画推進事業費	1,779 千円	いわて県南歴史・文化観光推進協議会が策定した計画に基づき、外国人来訪者の受入環境整備等（史跡の解説板等の多言語化）を行う。
地場特産品海外展開等推進事業費	6,050 千円	食と観光の連携を促進し、地域の活性化と交流人口、関係人口の拡大を図るため、地域活性化起業人制度を活用し、地場特産品の商品開発や海外への販路拡大を支援する。
課題解決型支援事業（しごとづくり支援金）	18,000 千円	市内において課題解決に向け新しい事業を行う者に対し、しごとづくり支援金を交付する。
骨寺村荘園 900 年記念事業費	3,000 千円	骨寺村荘園が中尊寺経蔵別当の荘園となってから 900 年の節目を迎えることから、記念講演会等の事業を通して、骨寺村荘園遺跡の価値と魅力を発信する。

第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定について

第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定の趣旨、策定の方向性及び策定の具体的な内容について説明します。

1 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定の趣旨等

(1) 策定のねらい

一関市と平泉町は、令和7年度に最上位計画である一関市総合計画前期基本計画（計画期間：令和8年度から令和12年度）と第6次平泉町総合計画後期基本計画（計画期間：令和8年度から令和12年度）を策定していることから、この内容に合わせた第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンを策定する。

(2) 計画期間 令和9年度から令和13年度

(3) 策定の方向性

- ① 市町の総合計画策定に伴い、定住自立圏形成協定に定める連携する具体的な事項との整合を確認したところ、現在の協定の内容は、総合計画等の内容を包含していることから、定住自立圏形成変更協定は締結しない方針とする。
- ② 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの内容は、原則として、第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの内容を引継ぐものとするが、市町が実施する各施策について、一関・平泉圏域にその効果が波及すると考えられる項目は、第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの具体的な取組に搭載する。

2 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの構成について

定住自立圏構想推進要綱及び他圏域の事例から以下の構成とする。

第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン	第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン
I 定住自立圏構想について	I 定住自立圏の名称
1 定住自立圏構想の概要	1 定住自立圏の名称
2 定住自立圏形成の経緯	2 圏域を構成する市町の名称
3 定住自立圏の名称及び構成市町	II 定住自立圏共生ビジョンの目的
4 定住自立圏共生ビジョンの目的	1 定住自立圏共生ビジョンの目的
5 定住自立圏共生ビジョンの期間	2 定住自立圏共生ビジョンの期間
II 一関・平泉定住自立圏の概況	III 定住自立圏の将来像
1 圏域の現状	1 圏域の現状
2 人口等の推移	
3 産業別就業者数の推移	
4 都市機能の集積状況	
III 圏域の将来像	2 圏域の将来像
1 将来推計人口	
2 圏域の目指す将来像	
3 圏域の中長期的な将来人口、高齢化率の目標	
IV 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取組	IV 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取組

3 成果指標（KPI）の設定について

定住自立圏構想推進要綱第6(3)⑤成果指標に基づき、成果指標を設定し進捗管理を行うが、次の理由により事業ごとではなく政策分野ごとに成果指標を設定する。

現状 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンは、事業ごとに独自の指標を設定



第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン

目的 策定のねらいである市町の総合計画の内容に合わせるため、それぞれの総合計画の指標と合わせる。

事業ごとの指標から、分野ごとの指標とし、事業の積み重ねにより達成する目標とする。

方法 各政策分野（10分野）において、市町の総合計画等で設定している指標のうち、関連が深い指標を設定する。

第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン （素案）

※令和7年国勢調査結果の公表により、人口等のデータは更新予定です。

一 関 市

2027年3月 策定

第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 目次

I	定住自立圏構想について	1
1	定住自立圏構想の概要	1
2	定住自立圏形成の経緯	1
3	定住自立圏の名称及び構成市町	1
4	定住自立圏共生ビジョンの目的	1
5	定住自立圏共生ビジョンの期間	1
II	一関・平泉定住自立圏の概況	2
1	圏域の現状	2
2	人口等の推移	3
3	産業別就業者数の推移	6
4	都市機能の集積状況	8
III	圏域の将来像	10
1	将来推計人口	10
2	圏域の目指す将来像	11
3	圏域の中長期的な将来人口、高齢化率の目標	12
IV	定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取組	
1	生活機能の強化に係る政策分野の取組	
2	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野の取組	
3	圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野の取組	

I 定住自立圏構想について

1 定住自立圏構想の概要

日本の総人口は、平成17年までは三大都市圏、地方圏ともに人口が増加していたが、人口減少時代を迎え、全国的な人口減少が進展する中、特に少子化、高齢化が急速な地方圏のいては、安心して暮らせる地域を形成し、人口流出を食い止め、三大都市圏からの人の流れを創出することが求められています。

定住自立圏構想は、中心市と近隣市町村が、「集約とネットワーク」の考え方に基づき、互いに連携、協力することにより、圏域全体の活性化を図ることを目的とした取り組みであり、「定住」のための暮らしに必要な諸機能を確保し、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを培い、全体として魅力あふれる地域を形成していくことを目指しています。

2 定住自立圏形成の経緯

平成25年7月 一関市が中心市宣言を行う。

平成25年10月 一関市と平泉町で定住自立圏形成協定を締結

平成26年3月 一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定（計画期間：平成26年度～30年度）

平成31年3月 一関・平泉定住自立圏形成変更協定締結

平成31年3月 第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定（計画期間：令和元年度～5年度）

令和6年3月 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定（計画期間：令和6年度～10年度）

令和8年3月 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン改定（計画期間：令和6年度～8年度）

3 定住自立圏の名称及び構成市町

定住自立圏の名称 一関・平泉定住自立圏

定住自立圏の構成市町 一関市、平泉町

4 定住自立圏共生ビジョンの目的

本共生ビジョンは、定住自立圏構想推進要綱（平成20年12月26日総行応第39号総務事務次官通知）「第6 定住自立圏共生ビジョン」の規定、並びに、一関・平泉定住自立圏形成協定に基づき、魅力ある定住自立圏を形成するため、圏域全体として目指すべき将来像を掲げ、適切に役割分担しながら、連携し推進する具体的な取組を示すものです。

5 定住自立圏共生ビジョンの期間

令和9年度から令和13年度までの5年間とし、毎年度、所要の見直しを行います。

Ⅱ 一関・平泉定住自立圏の概況

1 圏域の現状

(1) 位置と範囲

本圏域は、岩手県の南端に位置し、南部は宮城県に、西部は奥羽山脈を隔てて秋田県に、北部は奥州市、東部は気仙地区にそれぞれ接している。また、圏域の中心都市である一関市は盛岡市と仙台市のほぼ中間(それぞれ約90キロメートル)に位置し、東京都は新幹線で約2時間の距離にある。

圏域は、一関市、平泉町の1市1町で構成され、総面積1,319.81平方キロメートルで県土の8.6パーセントを占めている。

面積 (単位: km²)

区分	一関市	平泉町	圏域合計
面積	1,256.42	63.39	1,319.81
構成比	95.2%	4.8%	100.0%



(2) 地勢と気候

本圏域は、中心部を貫流する北上川と、その支流である太田川、磐井川、砂鉄川、千厩川、黄海川などの流域に開けた地域であり、その地勢は次の三つに分けられる。

一つは奥羽山脈にある標高1,626メートルの栗駒山から北上川流域に至る標高差の大きい西部山岳地帯、一つは北上川流域を中心とする低地平野部、一つは標高差は緩やかながら起伏に富んだ北上山系の一部をなす東部丘陵地帯の三地域であり、西部山岳地帯の一部は栗駒国定公園に、また東部丘陵地帯の一部は室根高原県立自然公園に指定されているなど豊かな自然景観に恵まれている地域である。

気候は、内陸型の特徴を示し、気候の比較差、年較差は大きいものの、県内では比較的温暖な地域である。

(3) 歴史

本圏域は、11世紀から12世紀にかけて藤原氏が奥州全域を統治し、黄金文化が開花した時代の中心であり、極めて高度な政治、経済、文化を有して、東北地方に数少ない繁栄の時代をもたらした地域であった。

藩政時代は、仙台藩及びその支藩である一関藩に属し、廃藩置県の際には現在の岩手県南と宮城県北部一帯に一関県が置かれるなど、もともと歴史的・風土的に古くから宮城県北部との結びつきが強く、現在でも人的、物的交流が極めて深いものとなっている。

(4) 交通条件

本圏域は、中心部を東北縦貫自動車道、東北新幹線など高速交通幹線が南北に縦断しており、これらと並行して国道4号、東北本線が走り、さらに国道284号、343号及び346号やJR大船渡線が東西に横断して内陸部と三陸沿岸部を結んでいる。

また、国道456号が県央から一関市東部を経て宮城県へ、国道342号と457号がそれぞれ一関市西部から秋田県及び宮城県へ通じている。

このほか、主要地方道が東西方向、南北方向にそれぞれ伸びており、これら主要幹線道路と一般県道、市町道、広域営農団地農道等によって圏域道路網が形成され、住民生活はもとより産業、経済活動の重要な基盤としてその役割を果たしている。

2 人口の推移

(1) 人口の推移

圏域全体の人口は、1955（昭和30）年をピークに減少を続けており、令和2年と令和7年の比較では、10,842人減少（9.1%減少）しています。

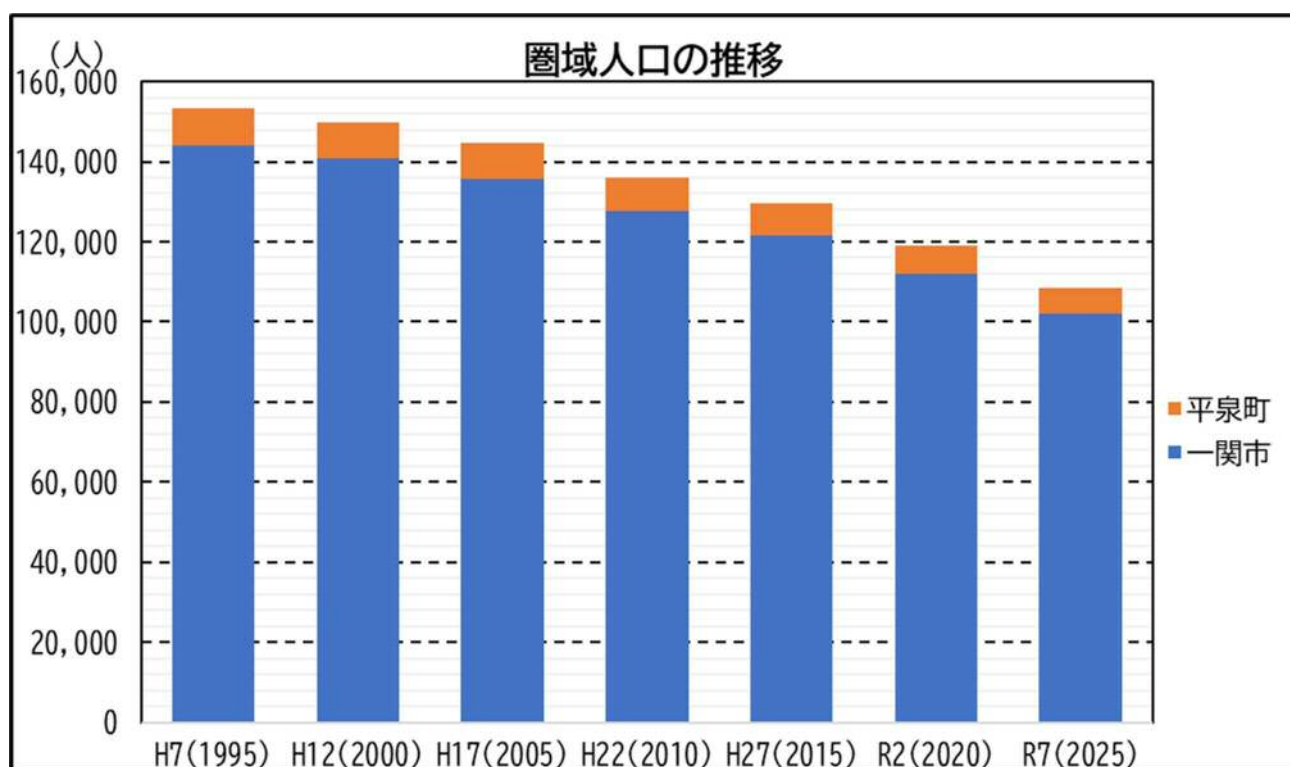
人口の減少率は加速しており、少子高齢化の人口構造による自然減によるものと考えられます。

表 人口の推移

（単位：人）

市町村名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	増減数 (増減率)
一関市	143,974	140,825	135,722	127,642	121,583	111,932	101,916	▲42,060 (▲29.2%)
平泉町	9,288	9,054	8,819	8,345	7,868	7,252	6,426	▲2,862 (▲30.8%)
合 計	153,262	149,879	144,541	135,987	129,451	119,184	108,342	▲44,920 (▲29.3%)

資料：総務省「国勢調査」



(2) 年齢3区分別人口の推移

人口が減少し続けている中において、年少人口及び生産年齢人口の減少と老年人口の増加により、少子高齢化が進展しています。

表 年少人口（0～14歳）の推移

（単位：人）

市町村名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	増減数 (増減率)
一関市	23,337	20,286	17,951	15,840	13,750	11,563		▲11,774 (▲50.5%)
平泉町	1,531	1,243	1,151	989	898	791		▲740 (▲48.3%)
合 計	24,868	21,529	19,102	16,829	14,648	12,354		▲12,514 (▲50.3%)

資料：総務省「国勢調査」

表 生産年齢人口（15～64歳）の推移

（単位：人）

市町村名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	増減数 (増減率)
一関市	89,757	84,860	79,283	72,936	67,024	58,370		▲31,387 (▲35.0%)
平泉町	5,790	5,477	5,182	4,814	4,222	3,602		▲2,188 (▲37.8%)
合 計	95,547	90,337	84,465	77,750	71,246	61,972		▲33,575 (▲35.1%)

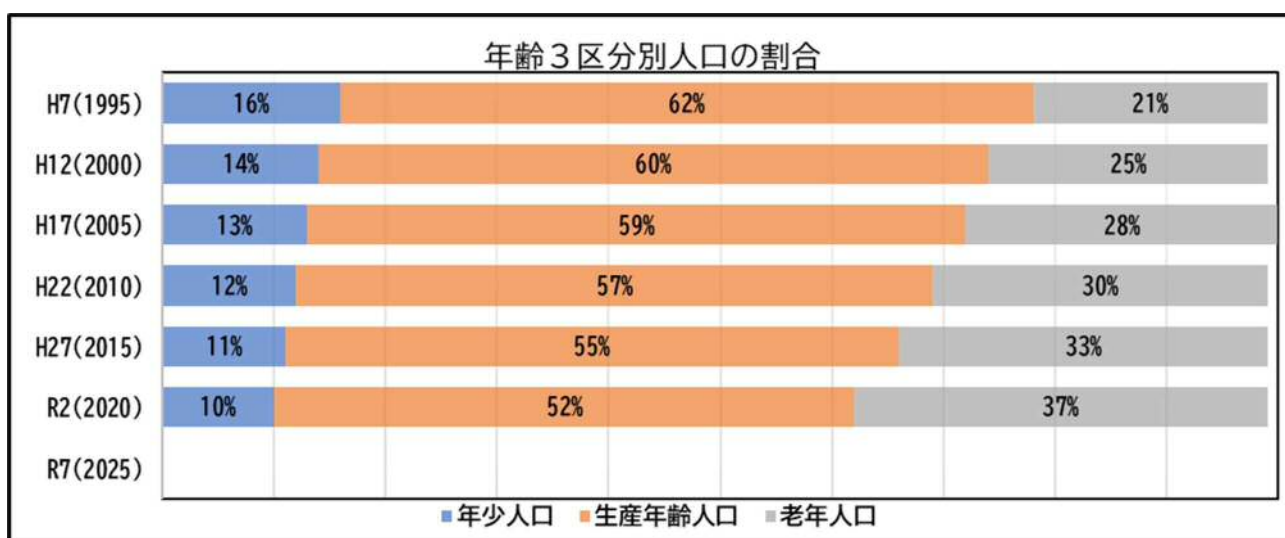
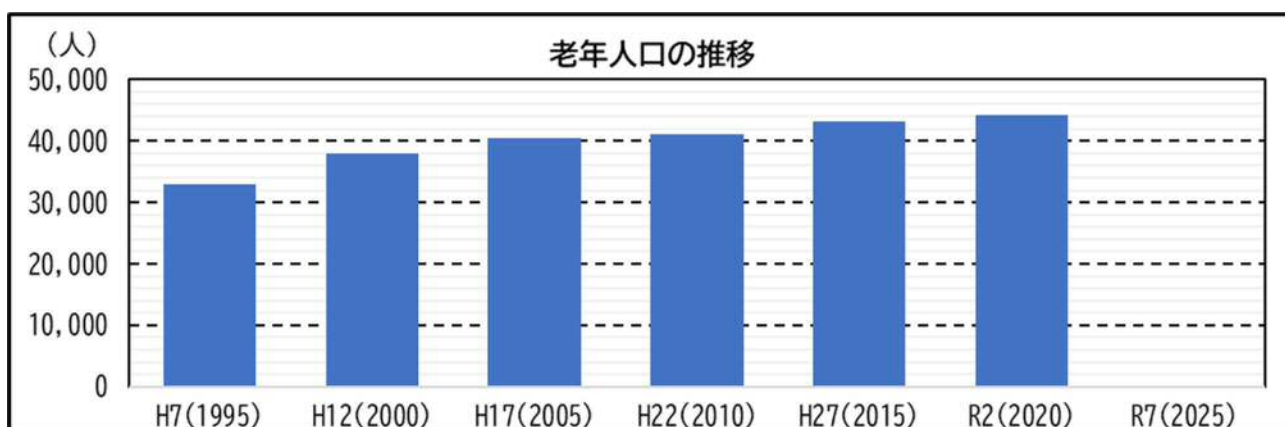
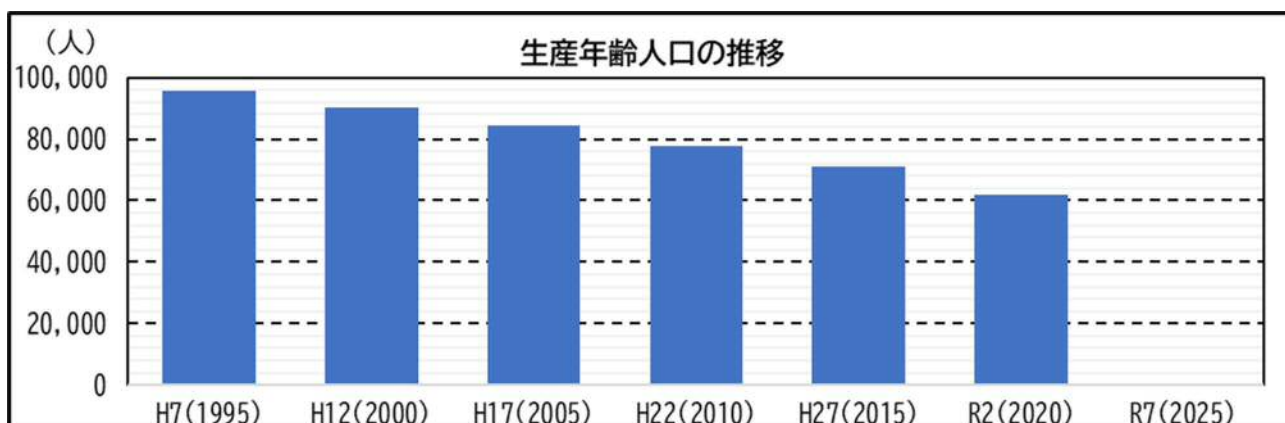
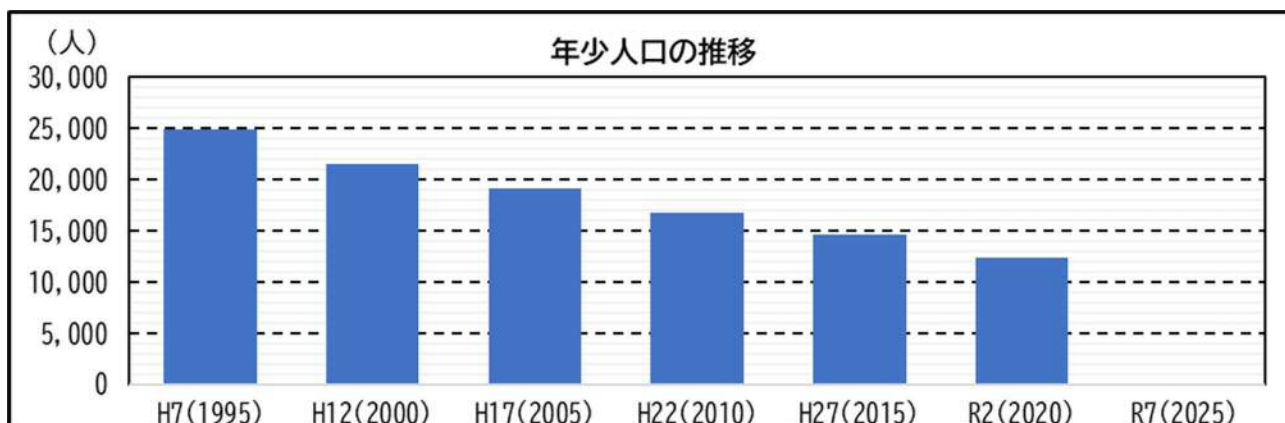
資料：総務省「国勢調査」

表 老年人口（65歳以上）の推移

（単位：人）

市町村名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	増減数 (増減率)
一関市	30,880	35,564	38,022	38,622	40,468	41,306		10,426 (33.8%)
平泉町	1,967	2,331	2,486	2,541	2,746	2,859		892 (45.3%)
合 計	32,847	37,895	40,508	41,163	43,214	44,165		11,318 (34.5%)

資料：総務省「国勢調査」



3 産業別就業者数の推移

第1次産業就業者及び第2次産業就業者は、両市町ともに減少傾向となっています。

第3次産業就業者は、両市町ともに平成17年までは増加傾向にありましたが、平成22年を境に減少に転じ、その後は、横ばいからやや減少傾向にあります。

表 第1次産業就業者数の推移

(単位：人)

市町村名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	増減数 (増減率)
一関市	15,577	12,913	11,456	9,257	7,939	6,785		▲8,792 (▲56.4%)
平泉町	990	814	801	651	581	509		▲481 (▲48.6%)
合 計	16,567	13,727	12,257	9,908	8,520	7,294		▲9,273 (▲56.0%)

資料：総務省「国勢調査」

表 第2次産業就業者数の推移

(単位：人)

市町村名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	増減数 (増減率)
一関市	28,176	27,324	22,453	18,102	18,078	16,571		▲11,605 (▲41.2%)
平泉町	1,745	1,702	1,454	1,186	1,172	1,076		▲669 (▲38.3%)
合 計	29,921	29,026	23,907	19,288	19,250	17,647		▲12,274 (▲41.0%)

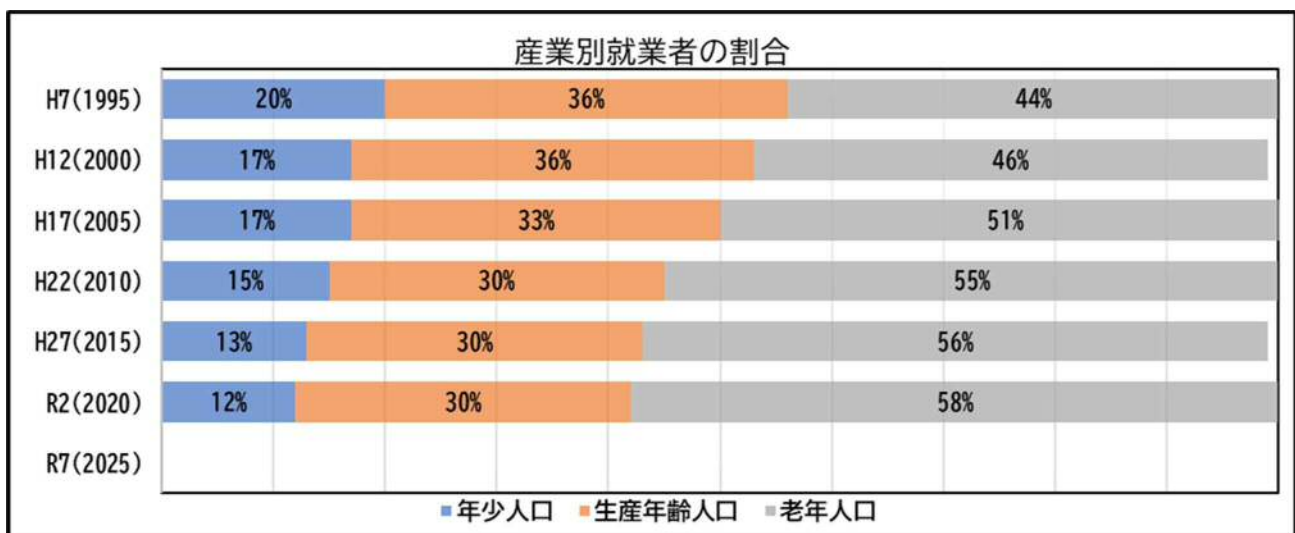
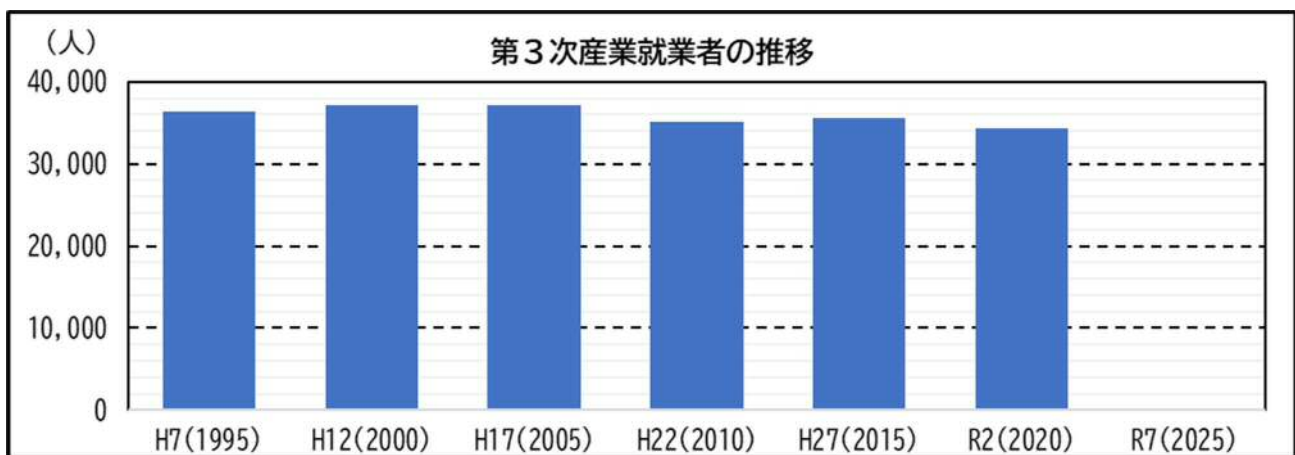
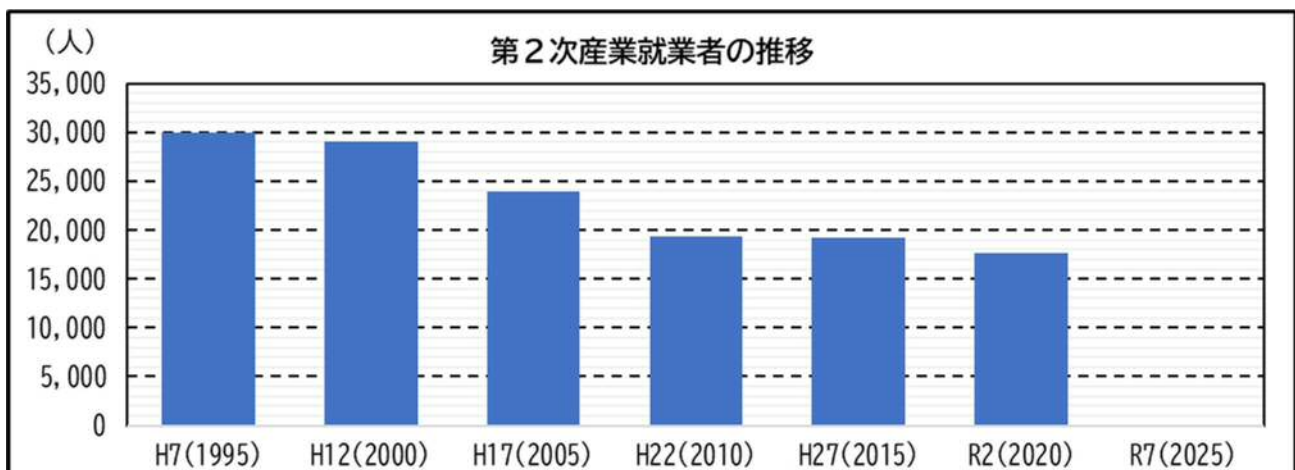
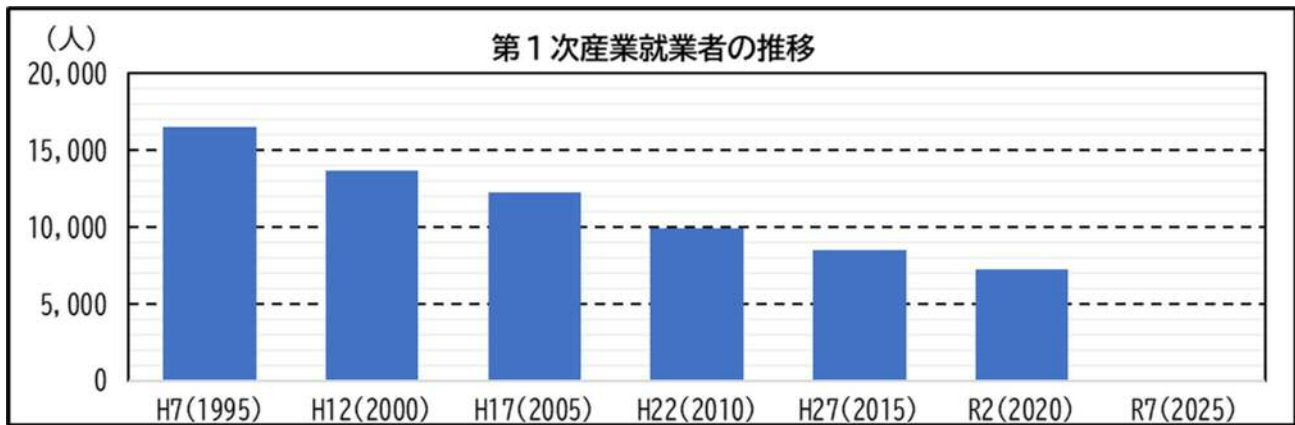
資料：総務省「国勢調査」

表 第3次産業就業者数の推移

(単位：人)

市町村名	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	増減数 (増減率)
一関市	34,047	34,701	34,677	32,864	33,328	32,136		▲1,911 (▲5.6%)
平泉町	2,363	2,375	2,422	2,325	2,313	2,185		▲178 (▲7.5%)
合 計	36,410	37,076	37,099	35,189	35,641	34,321		▲2,089 (▲5.7%)

資料：総務省「国勢調査」



4 都市機能の集積状況

一関市における公共施設等による各種サービス機能、医療機能、商業機能、その他行政及び民間分野における都市機能の集積状況は、概ね次のとおりです。

令和●年●月 時点

分類	都市機能	主な施設
医 療	公的医療機関	磐井病院、千厩病院、大東病院、南光病院、一関市国民健康保険藤沢病院、一関市国民健康保険猿沢診療所、一関市国民健康保険室根診療所、一関市国民健康保険千厩歯科診療所、独立行政法人国立病院機構岩手病院
	初期救急医療機関	休日当番医制運営事業 夜間救急医療対策事業 ※一関市と平泉町が共同で一関市医師会へ委託
	二次救急医療機関	病院群輪番制病院運営事業 ※県立病院等6医療機関により輪番制で実施
	民間医療機関	病院8、一般診療所56、歯科診療所41
福 祉	高齢者福祉施設等	特別養護老人ホーム17、小規模特別養護老人ホーム8、介護老人保健施設8、サービス付き高齢者向け住宅12、有料老人ホーム16、経費老人ホーム2
	障がい者福祉施設等	
	児童福祉施設等	保育所3、認定こども園（幼保連携型、保育所型）16、小規模保育施設4、事業所内保育所1、仮定的保育事業所3
教 育	短期大学	学校法人健康科学大学修紅短期大学
	高等専門学校	独立行政法人国立高等専門学校機構一関工業高等専門学校
	高等学校	県立一関第一高等学校、県立一関第二高等学校、県立一関工業高等学校、県立花巻高等学校、県立大東高等学校、県立千厩高等学校、学校法人一関学院一関学院高等学校、学校法人健康科学大学一関修紅高等学校
	中学校	市立中学校15校、県立中学校1校
	小学校	市立小学校21校
	幼稚園	市立幼稚園3園、市立こども園（幼稚園型）6園、私立幼稚園2園、私立こども園（幼稚園型）15園
	特別支援学校	県立一関清明支援学校
	専修学校	県立一関高等看護学院、一関市医師会附属一関看護専門学校、国際医療福祉専門学校一関校、東北ヘアーモード学院
文 化 スポーツ	文化・学習施設	一関市博物館、せんまや街角資料館、芦東山記念館、石と賢治のミュージアム、一関文化伝承館、SWS東日本シビックホール一関、藤沢文化センター、大籠キリシタン資料館、市民センター34、市立図書館8、いちのせき健康の森、花夢パルほか
	スポーツ施設	水泳プール4、野球場8、テニスコート10、陸上競技場1、多目的グラウンド9、サッカー・ラグビー場3、ソフトボール場2、体育館14、武道館2、弓道場1、キャンプ場2、パークゴルフ場1、スケート場1ほか

観 光	観光施設	真湯温泉センター、骨寺村荘園交流施設、花と泉の公園、大東ふるさと分校、アストロ・ロマン大東、室根高原ふれあい牧場、千厩酒のくら交流施設、室根山天文台、望洋平キャンプ場、藤沢交流施設
商業施設	大規模小売店舗	店舗床面積 1,000 m ² 以上の店舗 27 店舗 (うち 10,000 m ² 以上の店舗 2 店舗)
交 通	高速道路	東北自動車道 (一関 I C)
	鉄道駅	東北新幹線 (一ノ関駅)、東北本線 (5 駅)、大船渡線 (13 駅)
	高速バス	一関⇄仙台
	国道	国道 4 号、国道 284 号、国道 342 号、国道 343 号、国道 346 号、国道 456 号、国道 457 号
	道の駅	かわさき (国道 284 号)、厳美溪 (国道 342 号)、むろね (国道 284 号)、だいとう (国道 343 号)
行 政	国の出先機関等	盛岡地方検察庁一関支部、盛岡地方法務局一関局、一関簡易裁判所、盛岡家庭裁判所一関支部、盛岡地方裁判所一関支部、岩手河川国道事務所一関出張所、岩手南部森林管理署一関・須川森林事務所、一関税務署ほか
	県の出先機関等	県南広域振興局、一関児童相談所、県立千厩高等技術専門校、一関警察署ほか
広域行政	消防	消防本部、消防署 4、分署 5、分遣所 1
	ごみ処理	一関清掃センター、大東清掃センター
	し尿処理	一関清掃センター、川崎清掃センター
	斎場	釣山斎苑、千厩斎苑

Ⅲ 圏域の将来像

1 将来推計人口

圏域の人口は、1955（昭和30）年の185,454人をピークに減少を続けており、2020（令和2）年の国勢調査では119,184人、2025（令和7）年の国勢調査では108,342人と減少を続けています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、圏域の人口は今後も減少を続け、2040（令和22）年には81,307人、2050（令和32）年には64,986人になるものと見込まれています。

また、少子高齢化の進行に伴い年齢3区分別の人口は、いずれの区分においても減少するものの、人口比率は、年少人口（0～14歳）が2025（令和7）年の●.●%から2045（令和27）年には6.9%に減少、生産年齢人口（15～64歳）が2025（令和7）年の●.●%から2045（令和27）年には43.6%に減少、老年人口（65歳以上）が2025年の●.●%から2045（令和27）年には49.5%に増加するものと見込まれています。

市町	年齢区分	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	増減数 (増減率)
一関市	0～14歳	11,600		7,109	5,828	5,234	4,690	4,071	▲7,529 (▲64.9%)
	15～64歳	58,884		46,050	41,224	35,408	29,984	25,507	▲33,377 (▲56.7%)
	65歳以上	41,448		39,156	36,987	35,543	33,930	31,618	▲10,280 (▲24.8%)
	合 計	111,932	101,916	92,315	84,039	76,185	68,604	61,196	▲50,736 (▲45.3%)
平泉町	0～14歳	791		499	405	353	314	276	▲515 (▲65.1%)
	15～64歳	3,602		2,832	2,554	2,202	1,831	1,496	▲2,106 (▲58.5%)
	65歳以上	2,859		2,666	2,452	2,297	2,165	2,018	▲841 (▲29.4%)
	合 計	7,252	6,426	5,997	5,411	4,852	4,310	3,790	▲3,462 (▲47.7%)
圏域	0～14歳	12,391		7,608	6,233	5,587	5,004	4,347	▲8,044 (▲64.9%)
	15～64歳	62,486		48,882	43,778	37,610	31,815	27,003	▲35,483 (▲56.8%)
	65歳以上	44,307		41,822	39,439	37,840	36,095	33,636	▲10,671 (▲24.1%)
	合 計	119,184	108,342	98,312	89,450	81,037	72,914	64,986	▲54,198 (▲45.5%)
高齢化率		37.2%		42.5%	44.1%	46.7%	49.5%	51.8%	

資料：総務省「国勢調査」、

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

2 圏域の将来像

一関市と平泉町は、両磐地域という名称で行政、経済、文化等の強い結びつきを持っており、両磐地区広域市町村圏協議会を組織し、課題や連携事業について協議を進めるとともに、一関地区広域行政組合を設置し、ごみ処理や介護保険事業計画など、スケールメリットを生かした効率的な行政運営に取り組んできました。

現在、日本は本格的な人口減少社会に突入し、2025（令和7）年の国勢調査結果では、東京都と沖縄県を除く45道府県で人口が減少しています。東北地方では、宮城県を除く5県（青森県、秋田県、岩手県、山形県、福島県）で、2020年を基準人口とした5年間の人口減少率は5%以上となっており、地方圏における大幅な人口減少が進展しています。

また、国際情勢や物価高騰、人口減少に伴う産業構造の変化、デジタル化の進展など地方自治体を取り巻く環境は大きく変化しており、「誰一人取り残さない社会」の実現のためには、各地域が創意工夫し、連携・協力を深め、持続可能な地域を形成していくことが必要です。

一関市と平泉町からなる本圏域においては、人口の減少や少子高齢化率が全国平均や岩手県平均と比較して進行しており、年少人口や生産年齢人口の減少による地域社会の活力低下が危惧されます。

このような状況においても、本圏域が「自立」し、「定住」し続けられる地域であるため、医療や福祉など暮らしに必要な生活機能を圏域全体で確保し、住民が安心して暮らすことができる環境を整備するとともに、産業の活性化や交流人口の拡大を図り、「郷土の誇りを育み、住み続けていきたいと思える一関・平泉定住自立圏」の形成を目指します。

一関市と平泉町は、将来像の実現に向け、平成31年3月26日に締結した一関・平泉定住自立圏形成協定に基づき、両市町の総合計画で定める将来像やまちづくりの考え方などを踏まえながら、次の施策展開の基本的方向により、適切な役割分担と連携を図り、取組を推進します。

【生活機能の強化の政策分野に関する施策展開の基本的方向】

分野	施策展開の基本的方向
医療	▶地域保健医療体制の充実
	▶医療従事者の確保対策
福祉	▶総合的な子育て支援
	▶地域で安心して暮らせる環境整備
産業振興	▶文化と地域資源を生かした観光の振興
	▶起業の育成等の工業振興
	▶農産物のブランド化などの農業振興
	▶事業承継・産業人材の確保
教育及び文化	▶教育環境の整備や教育内容の充実
	▶生涯学習環境の充実やスポーツ活動の振興
	▶世界遺産「平泉」の構成資産及び個別資産の調査研究と保存管理
	▶消防防災体制などの充実

【結びつきやネットワークの強化の政策分野に関する施策展開の基本的方向】

分野	施策展開の基本的方向
地域公共交通	▶バス等の地域公共交通の維持
交通インフラ整備	▶圏域市町間を結ぶ主要幹線道路の整備と他圏域を結ぶ高規格道路の整備促進
協働のまちづくり	▶住民が主体となった協働の地域づくり
地域内外住民との交流、移住促進	▶移住定住の促進

【圏域マネジメント能力の強化の政策分野に関する施策展開の基本的方向】

分野	施策展開の基本的方向
中心市等における人材育成	▶外部人材の確保

3 圏域の中長期的な将来人口、高齢化率の目標

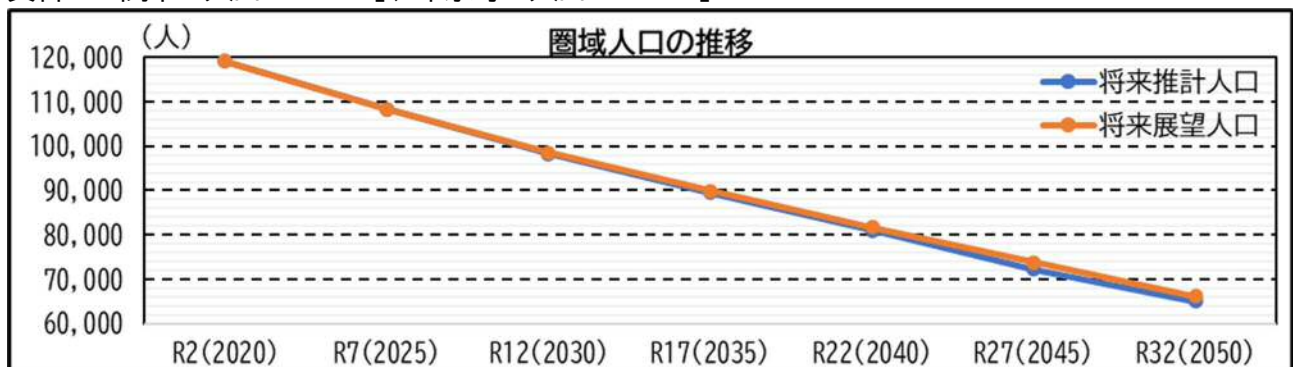
圏域の中長期的な将来人口、高齢化率の目標は、一関市と平泉町がそれぞれ策定した人口ビジョンにおける将来展望に基づき、2045（令和27）年に人口74,000人程度、高齢化率48%程度とする。

なお、中長期的な将来人口、高齢化率の目標を達成するための、短期的な人口等の見通しは、2030（令和12）年に人口98,000人程度、高齢化率42%程度とし、中期的な人口等の見通しは、2035（令和17年）に人口90,000人程度、高齢化率44%程度とする。

表 圏域の推計人口

市町	年齢区分	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	増減数 (増減率)
一関市	0～14歳	11,600		7,063	5,782	5,203	4,677	4,064	▲7,536 (▲65.0%)
	15～64歳	58,884		45,660	40,912	35,136	29,759	25,327	▲33,557 (▲57.0%)
	65歳以上	41,448		38,990	36,801	35,352	33,740	31,412	▲10,036 (▲24.2%)
	合 計	111,932	101,916	92,406	84,188	76,384	68,869	61,496	▲50,436 (▲45.1%)
平泉町	0～14歳	791		570	519	612	619	652	▲ 139 (▲17.6%)
	15～64歳	3,602		2,913	2,756	2,463	2,212	2,025	▲1,577 (▲43.8%)
	65歳以上	2,859		2,675	2,452	2,273	2,153	1,996	▲ 863 (▲30.1%)
	合 計	7,252	6,426	6,157	5,728	5,348	4,984	4,672	▲2,580 (▲35.6%)
圏域	0～14歳	12,391		7,633	6,301	5,815	5,296	4,716	▲8,215 (▲66.3%)
	15～64歳	62,486		48,573	43,668	37,599	31,971	27,352	▲35,134 (▲56.2%)
	65歳以上	44,307		41,665	39,253	37,625	35,893	33,408	▲10,899 (▲24.6%)
	合 計	119,184	108,342	98,563	89,916	81,732	73,853	66,168	▲53,646 (▲45.0%)
高齢化率		37.2%		42.3%	43.7%	46.0%	48.6%	50.5%	

資料：一関市「人口ビジョン」、平泉町「人口ビジョン」



※具体的な取組記載イメージ

1 生活機能の強化に係る政策分野の取組

(1) 医療

成果指標（K P I）	現状値（R6年度）	目標値（R12年度）
【一関市】人口10万人当たりの医療機関数	64.1か所	64.1か所
【平泉町】休日及び夜間における診療の充足率	100%	100%

① 地域保健医療体制の充実

定住自立圏形成協定の内容	
取組の内容	行政や関係機関が設置する高齢、障がい、子育て等の各分野の相談窓口の連携を図るとともに、住民が安心して医療サービスを受けられるよう、保健、医療、福祉、介護などの関係機関・団体の連携を強化しながら、地域保健医療体制の充実に取り組む。
一関市の役割	医療機関相互の機能分担や連携を促進するとともに、保健、医療、福祉、介護などの関係機関の連携により、地域保健医療体制の充実に努める。 また、救急医療体制の充実のため、圏域の医療機関等に対し、必要な支援を行うとともに、かかりつけ医など医療機関の適正受診や救急車の適正利用等について市民への周知を図る。
平泉町の役割	保健、医療、福祉、介護などの関係機関の連携により、地域保健医療体制の充実に努める。 また、救急医療体制の充実のため、圏域の医療機関等に対し、必要な支援を行うとともに、かかりつけ医など医療機関の適正受診や救急車の適正利用等について町民への周知を図る。

事業名	休日・夜間診療体制確保事業			関係市町	両市町
取組内容	圏域内の休日及び夜間等における救急医療体制を確保するため、一関市医師会及び関係機関と連携し、休日及び夜間等における救急医療等を実施する。				
事業効果	休日及び夜間等の医療提供体制を確保することにより、圏域住民の安心と安全が確保される。				
具体的な事務事業	【一関市】 ○休日・夜間当番医制運営事業 ○休日歯科応急診療事業 ○病院群輪番制病院運営事業（県と共同実施） 【平泉町】 ○医療体制充実事業				
実施年度	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)
事業費(千円)	48,221	47,349	50,330	50,330	50,330
役割分担	圏域の医療体制の充実を図るため、両市町をエリアとする一関市医師会の協力の下、一関市が関係機関等の調整を行い、休日及び夜間等における医療提供体制を確保し、平泉町はその費用の一部を負担する。				
関連するSDGs	  				
特記事項	事業費は、策定（改定）時点における関係市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算により具体額を定めます。				

(3) 産業振興

成果指標（KPI）	現状値（R6年度）	目標値（R12年度）
【一関市】観光客入込客数	2,225,000人	2,320,000人
【平泉町】観光客入込客数	1,630,280人	2,200,000人
【一関市】誘致企業数（累計）	32社	44社
【平泉町】誘致企業数（累計）	5社	7社
【一関市】農業産出額	387.9億円（R5年）	390.3億円（R11年）
【平泉町】新規就農者数（累計）	9人	15人
【一関市】市の施策による起業家数（累計）	4人	22人
【平泉町】創業・事業承継数	3件	3件

① 文化と地域資源を活かした観光の振興

定住自立圏形成協定の内容	
取組の内容	世界遺産「平泉」や「もち食文化」に加え、多様な地域資源を掘り起し、磨き上げるとともに、訪日外国人を含め観光客のニーズに対応した受入環境の整備を進め、魅力ある観光地の形成に取り組む。 また、仙台圏、首都圏の国内観光客と訪日外国人をターゲットとしたプロモーションを展開し、誘客拡大を図る。
一関市の役割	関係機関・団体と連携し、地域資源の活用と魅力を発信するとともに、滞在型観光の推進と受入環境の整備を進め、世界遺産「平泉」を中心とする観光地の魅力向上に努める。
平泉町の役割	関係機関・団体と連携し、地域資源の活用と魅力を発信するとともに、滞在型観光の推進と受入環境の整備を進め、世界遺産「平泉」を中心とする観光地の魅力向上に努める。

事業名	インバウンド推進事業			関係市町	両市町
取組内容	国や県におけるインバウンド推進の取組と連動して、近隣市町村との連携によるインバウンド誘客に取り組むとともに、受入環境整備を継続して取り組む。				
具体的な事務事業	【一関市】○観光ガイド事業 ○インバウンド推進事業費 ○みちのくGOLD浪漫推進事業費 ○いわて平泉歴史文化観光地域計画推進事業費 【平泉町】○国際交流員活用事業				
事業効果	圏域への経済効果が期待できるインバウンド誘客が促進されるとともに、訪日外国人観光客の利便性が高まる。				
実施年度	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)
事業費(千円)	21,701	20,910	29,015	15,587	15,647
役割分担	一関市と平泉町が連携し、インバウンド誘客のための事業を実施し、それぞれが必要な費用を負担する。				
関連するSDGs	 				
特記事項	事業費は、策定（改定）時点における関係市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算により具体額を定めます。				

定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取組（体系図案）

【圏域の将来像】「郷土の誇りを育み、住み続けていきたいと思える一関・平泉定住自立圏」

【将来人口、高齢化率の目標（2045（令和27）年） 74,000人程度、高齢化率48%程度

令和8年7月17日（金）

令和8年度第1回ビジョン懇談会【資料No.2－3】

1 生活機能の強化に関する政策分野の取組

医療	【成果指標】 ▶人口10万人当たりの医療機関数（一関市）▶休日及び夜間における診療の充足率（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶地域保健医療体制の充実 ▶医療従事者の確保対策	▶休日・夜間診療体制確保対策事業 ▶地域医療確保対策事業
福祉	【成果指標】 ▶保育所などの待機児童数（一関市）▶地域子育て支援拠点事業利用者数（平泉町） ▶地域包括支援センター設置数（一関市）▶総合的な相談窓口の設置数（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶総合的な子育て支援 ▶地域で安心して暮らせる環境整備	▶子育て世代の負担軽減事業 ▶子育て環境整備事業 ▶在宅医療、介護連携推進事業 ▶介護人材育成事業 ▶成年後見制度利用支援事業
産業振興	▶観光客入込客数（一関市・平泉町） 【成果指標】 ▶誘致企業数（累計）（一関市・平泉町） ▶農業産出額（一関市）▶新規就農者数（累計）（平泉町） ▶市の施策による起業家数（累計）（一関市）▶創業・事業承継数（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶文化と地域資源を生かした観光の振興	▶インバウンド推進事業 ▶観光地間二次交通整備事業 ▶もち食文化発信事業 ▶一関・平泉バルーンフェスティバル事業
	▶起業の育成等の工業振興	▶地域内発型産業創出事業 ▶企業立地促進事業
	▶農産物のブランド化などの農業振興	▶地産外商促進事業 ▶農林水産業6次産業化支援事業
	▶事業承継・産業人材の確保	▶地元就業定着支援事業 ▶企業・創業支援事業
教育及び文化	▶全国学力・学習状況調査における特定科目の正答率（全国比）（一関市） 【成果指標】 ▶「授業の内容がよくわかる」と答えた中学2年生の割合（平泉町） ▶市民1人当たりの市民センターの生涯学習活動参加回数（一関市）▶社会教育事業参加者数（平泉町） ▶指定文化財件数（一関市）▶史跡公園の整備数（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶教育環境の整備や教育内容の充実	▶学校給食運営事業 ▶将来世代の人材育成事業
	▶生涯学習環境の充実やスポーツ活動の振興	▶地元学学習事業 ▶学術・スポーツ振興事業
消防防災	▶世界遺産「平泉」の構成資産及び個別資産の調査研究と保存管理	
	▶世界文化遺産調査整備事業 ▶世界遺産価値向上推進事業	
	【成果指標】 ▶消防・防災セミナーの受講者数（累計）（一関市）▶自主防災組織を対象とした訓練・研修会の開催数（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶消防防災体制などの充実	▶広域消防事業

定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取組（体系図案）
【圏域の将来像】「郷土の誇りを育み、住み続けていきたいと思える一関・平泉定住自立圏」
【将来人口、高齢化率の目標（2045（令和27）年）】74,000人程度、高齢化率48%程度

2 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野の取組

地域公共交通	【成果指標】 ▶拠点間を結ぶ路線バスの路線数（一関市）▶路線バスの年間利用者数（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶バス等の地域公共交通の維持	▶生活バス路線対策事業
交通インフラ整備	【成果指標】 ▶健全性診断で「早期措置段階」と判断された橋梁数（一関市）▶町道改良率（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶圏域市町間を結ぶ主要幹線道路の整備と他圏域を結ぶ高規格道路の整備促進	▶主要幹線道路等整備促進事業 ▶幹線道路等整備促進事業
協働のまちづくり	【成果指標】 ▶自治会等活動費総合補助金活用団体の割合（一関市）▶まちづくりに関するワークショップの開催回数（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶住民が主体となった協働の地域づくり	▶協働のまちづくり事業 ▶多文化共生推進事業
地域内外の住民との交流、移住促進	【成果指標】 ▶移住定住促進事業を活用して移住した世帯数（一関市）▶移住支援施策を利用して移住した転入者数（累計）（平泉町）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶地域内外住民との交流、移住促進	▶移住定住の促進

3 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野の取組

中心市等における人材育成	【成果指標】 ▶市町が登用した外部人材の人数（仮）	
	【協定項目】	【具体的な取組】
	▶外部人材の確保	▶外部人材活用推進事業（仮）

第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催スケジュールについて

・第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定に係る懇談会の開催等スケジュールを説明します。

1 令和8年度開催スケジュール

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
懇談会						ビジョン懇談会①					ビジョン懇談会②			
						・第3次ビジョンの改定について					・第3次ビジョンのKPI実績について			
						・第4次ビジョンの策定について					・第4次ビジョンの原案について			
						・懇談会開催スケジュールについて					・令和9年度開催スケジュールについて			
ビジョン第4次			(市町)変更協定方針に関する協議			(市)素案作成	(市町)KPI・搭載事業(具体的な取組)検討・原案作成				(市町)原案決定	(市町)パブリックコメント		
			(市町)第4次ビジョン策定方針協議・決定									(市町)議会へ説明	搭載事業決定	(市)策定
議会等	一関市				6月通常会議			9月通常会議			12月通常会議		2月通常会議	議決
	平泉町				6月定例会議			9月定例会議			12月定例会議			3月定例会議 議決

- ・ 令和7年度第2回懇談会にて、懇談会を3回開催予定と説明しましたが、定住自立圏形成変更協定を締結しない方針としたことから、2回開催とします。

2 ご意見等の募集について

- ・ 第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定に係るご意見等につきましては、懇談会のほか、オンライン申請フォームにて随時受付を行います。
- ・ 委員の皆様からは、専門分野の見地から、第4次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの具体的な取組等に対し、ご意見をお願いいたします。
- ・ 委員の皆様から頂いたご意見は、第2回ビジョン懇談会や令和9年度ビジョン懇談会において反映状況を報告いたします。

オンライン申請フォームURL <https://logoform.jp/form/HgLy/1675188>

オンライン申請フォーム二次元コード

